

事後評価概要資料

番号	2001	担当課名	道路街路課																																				
事業名	道路改築事業	事業主体	埼玉県																																				
路線・河川・地区名	主要地方道飯能寄居線（葛貫工区）	事業箇所	毛呂山町																																				
事業完了年	平成24年2月	事業完了後の経過年数	2年																																				
事業概要	目的	交通が集中する既成市街地を迂回するバイパス整備により、旧道及び周辺道路の渋滞解消や高次医療施設へのアクセス性向上を図る。																																					
	必要性	主要地方道飯能寄居線は、県西部地域の主要な幹線道路であり、既成市街地間を連絡する南北方向の唯一の道路である。このため、地域の生活交通と物流等の大型車の通過交通が集中し、慢性的な交通渋滞が発生し、埼玉医科大学病院や国際医療センターといった医療機関へのアクセスにも支障をきたしていた。 以上より、現道の交通渋滞を緩和し、安全で円滑な交通を確保するため、このバイパスの早期整備が必要となっていた。																																					
	効果	通過交通のバイパスへの転換が図られ、現道の交通渋滞の解消及び埼玉医大や国際医療センターといった医療機関へのアクセス性も大きく向上した。																																					
	事業内容	総事業費	4,263百万円	事業期間	平成8年度～平成23年度（16年間）																																		
		延長	2,260m		幅員	15.0m（両側歩道）																																	
		主な構造物	橋りょう（大谷木川、JR八高線）																																				
事業概要図																																							
事後評価項目	事業の効果の発現状況	<p>バイパス開通前後の交通量の変化</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>開通前 (H22センサス)</th> <th>開通後 (H25.1)</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現道</td> <td>13,730</td> <td>5,827</td> <td>-7,903台/12h (-58%)</td> </tr> <tr> <td>バイパス</td> <td>-</td> <td>8,894</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>渋滞状況（医大前交差点）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>開通前 (H17.10)</th> <th>開通後 (H25.1)</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>渋滞長</td> <td>150m</td> <td>0m</td> <td>-150m</td> </tr> </tbody> </table> <p>旅行速度（混雑時 17:00～19:00（寄居方面））</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>開通前 (H24.2)</th> <th>開通後 (H25.1)</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現道</td> <td>23.7km/h</td> <td>30.8km/h</td> <td>+7.1km/h</td> </tr> <tr> <td>バイパス</td> <td>-</td> <td>31.1km/h</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>							開通前 (H22センサス)	開通後 (H25.1)	差	現道	13,730	5,827	-7,903台/12h (-58%)	バイパス	-	8,894	-		開通前 (H17.10)	開通後 (H25.1)	差	渋滞長	150m	0m	-150m		開通前 (H24.2)	開通後 (H25.1)	差	現道	23.7km/h	30.8km/h	+7.1km/h	バイパス	-	31.1km/h	-
		開通前 (H22センサス)	開通後 (H25.1)	差																																			
	現道	13,730	5,827	-7,903台/12h (-58%)																																			
	バイパス	-	8,894	-																																			
	開通前 (H17.10)	開通後 (H25.1)	差																																				
渋滞長	150m	0m	-150m																																				
	開通前 (H24.2)	開通後 (H25.1)	差																																				
現道	23.7km/h	30.8km/h	+7.1km/h																																				
バイパス	-	31.1km/h	-																																				
効果分析の要因の変化	再評価時（平成21年度）との比較																																						
	・総事業費	4,054百万円	4,263百万円	（209百万円増）																																			
	・供用年度	平成22年度	平成23年度	（1年延長）																																			
	・B/C	2.78	2.72	（0.06減）																																			
事業実施による副次的効果	<p>高次医療施設である国際医療センターへのアクセス性が向上した。西入間広域消防組合による副次的効果の救急医療担当者からは、救急搬送時間の短縮、幅員が広がったことによる接触事故が減少したなど、交通環境が改善されたとの声をいただいた （国際医療センターへの平均搬送時間が8分32秒から7分45秒となり47秒短縮） また、路線バスの運転手からも定時性が確保され利便性が向上したとの声をいただいた。</p>																																						
評価結果及び考察	<p>（評価結果） バイパス整備により、旧道の渋滞が解消されるとともに、埼玉医科大学病院や国際医療センターといった医療機関へのアクセス性が大きく向上した。</p> <p>（考察） 事業効果を最大限に発揮できるよう、このバイパスの早期全線開通を目指し、残る区間の事業を推進する。</p>																																						
特記事項																																							